

平成30年度 英語が好きになる学校づくり事業 取組報告書

事務所名	沿岸南部	学校名	大船渡市立綾里中学校	TEL	0192-42-2300
------	------	-----	------------	-----	--------------

「書くこと」を通して自分の考えや思いを表現できる生徒の育成

【ねらい】

生徒が難しいと感じる「書く」力を付けるため、相手に伝える必然性のある活動を設定し、書く目的を明確にした授業づくりや授業改善を行う。

【具体的な取組】

上記のねらいを達成するため、授業づくりと環境づくりの2つの側面からの取り組みを行った。

【1】授業づくり

①生徒が「書きたい」と思うようなゴールを設定し、「自分の考えを、目的を持って相手に伝えるために書く」活動を、年間・学年を通して継続して行う。

これまでは、何のために書くのか、誰に伝えるために書くのか、ということをあまり意識せずに書く活動に取り組んできた。そこで、「小学生に伝える」「ALTに伝える」「同級生に伝える」のように、伝える相手を明確にして、書く活動に取り組んだ。また、英語が苦手な生徒でも前向きに取り組めるきっかけとなるよう、生徒自身が興味を持っていることや、伝えたいと思うことを書かせる機会も設定した。今年度行った活動は次の通りである。

1年生	2年生	3年生
○自己紹介（同級生へ向けて） ○先生の紹介（小学生へ向けて） ○自分の好きな人物の紹介（1・2・3年生へ向けて）	○海外旅行のプランづくり（同級生へ向けて） ○地元の紹介（サンディエゴの生徒へ向けて） ○職場体験について（1・3年生へ向けて）	○修学旅行の思い出（1・2年生へ向けて） ○日本国内のおすすめの場所の紹介（ALTへ向けて） ○職場体験について（1・2年生へ向けて）

1年生で取り組んだ、中学校の先生を小学生に紹介する活動では、最終的にビデオレターを作成し、中学校の先生を小学生に知ってもらうことをゴールに設定した（話した内容を書き起こし、どのような内容を話していたのか、補助的に活用してもらうという目的で、先生方の紹介パンフレットを書く活動につなげた）。生徒は、「小学生が知りたい内容は何か」「ビデオレターで伝えるにあたって、どうすれば小学生に伝わるか」などを考え、自分たちの発表を撮影し、それを見返しながら、よりよい発表にするために練習を重ねた。「小学生」という、伝える相手を明確にすることで、発表の仕方や使用する言葉に意識を向け、工夫して紹介する姿が見られた。

また、サンディエゴの野球チームとの交流会があり、そこで学校生活や地域について紹介する内容を生徒に考えさせた。自校で行っている郷土芸能や部活動を、分かりやすく伝えるにはどのように説明すれば良いか、生徒同士で交流しながら原稿を作成することができた。

3年生で取り組んだ「日本国内のおすすめの場所」は、これまでの自分の経験をもとにしたり、自分が行きたいところを調べたりして紹介文の作成を行った。「幼いときに住んでいた場所」「家族と旅行に行った場所」「自分の憧れの場所」など、それぞれの個性が表れる紹介文となった。これらの活動を通し、生

徒が伝えたいと思う題材を選定することの大切さや、相手意識を持たせることの大切さを実感した。

②ゴールから逆算した授業づくり

ゴールとなる姿を明確に示したことで、生徒たちは、各活動においてどのような力を身に付ければ良いか、また、活動の目的を理解し、見通しを持ちながら取り組むことができるようになってきた。

振り返りの場面では、次の学習に向けて、何に取り組めば良いか記述する生徒が増えてきた。

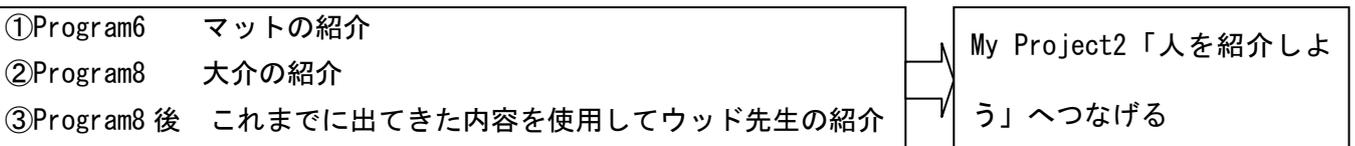
【例】1年生の My Project2 では、「小学生に中学校の先生を紹介する」というゴールを設定し、それに向けて各 Program で段階的に練習を積ませた。

- ・ My Project2 での発表に向けて、各 Program の本文を活用し、キーワードをヒントにして、教科書本文の内容についてリテリングを行わせた。
- ・ 音読練習を行った後、生徒はマッピングを基に、教科書の内容についてリテリングを行わせた。
- ・ 原稿を書いてから発表するのではなく、マッピング等を活用しキーワードを基に発表に取り組ませた。発表したことについてまとめ、自分の考えや気持ちを付け加え書かせることで、相手に伝えるために書く力の育成につなげた。
- ・ マッピングを活用し発表させることで、即興性にもつなげることをねらった。

③各学年の実践例

○ 1年生 「My Project2」

My Project2 では、「小学生に中学校の先生を紹介するビデオレターを作成する」という活動をゴールに設定した。各 Program で、人物紹介をする練習をするために、学習した表現を使用しながら少しずつ練習を重ねた。



①

②

③

○ 2年生 「Program6 A Work Experience Program」

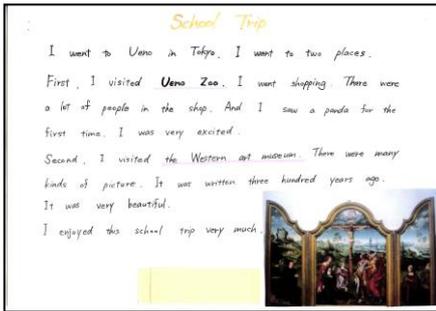
Section1~Section3 まで、教科書の内容について、キーワードをもとにしながら説明し、その後自分の職場体験についてまとめさせた。



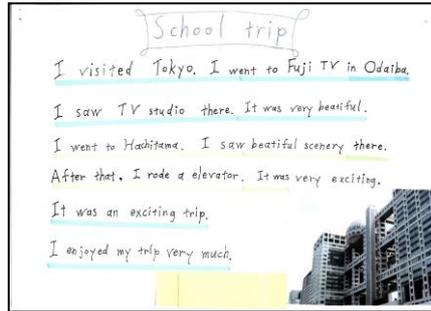
○ 3年生 「修学旅行の思い出・おすすめの場所の紹介」

修学旅行から帰ってきた後、自分たちの思い出の場所や出来事を紹介する文を書いた。また、Program2では、自分のおすすめの場所をALTに紹介するという目的で、紹介文を書かせた。

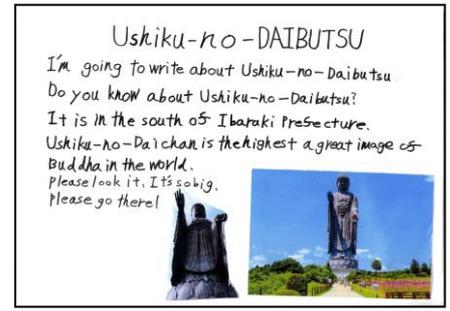
①修学旅行のまとめ



②修学旅行のまとめ



③おすすめの場所紹介



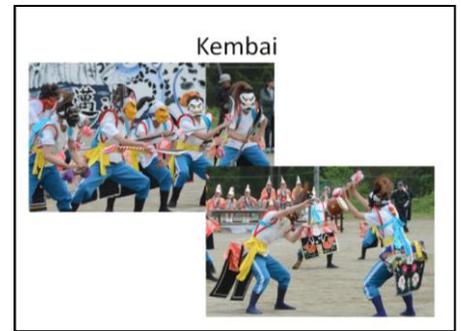
○サンディエゴの野球チームとの交流

2年生 Program5 Gulliver's Travels と綾里を関連づけて、サンディエゴの人たちに綾里や綾里中学校を紹介するとしたら・・・というテーマで紹介したい項目や内容について考えさせた。



Ryori Junior High School

- 59 students
- 5 club activities: baseball, soft tennis ball, table tennis, volleyball, culture club.
- **Ryochu Damashii** (Our motto)
 1. To consideration for others
 2. To think over
 3. To try our best



【2】環境づくり

①英語教室の充実

一昨年度から英語教室を設置していたものの、せっかくの教室を活用できていなかった。今年度はクリアファイルを壁に取り付け、生徒の作品を簡単に掲示できるようにした。生徒の作品を掲示することで、他の学年の目にも触れることになり、同級生はもとより他学年の作品からも良さを学ぶことができた。また、他の人の目に触れることが、相手意識を持って書くことにもつながった。



②綾里小学校との連携

今年度は、綾里小学校の先生方のご協力のおかげで、6年生の授業参観回数に加え、外国語活動の T2 として授業に参加させていただくことができた。夏休み明けの授業は、1 単元分参加させていただいた。実際に参観したり、授業に参加したりすることで、移行期において小学校ではどのような内容を学習しているのかということを知ることができた。

「来年入学してくる児童たちは、小学校でここまで勉強している」という姿が明確になっただけでなく、今、目の前にいる生徒たちへの指導を見直すきっかけや、授業づくりのヒントとなる貴重な機会を得ることができた。1年生の My Project2 で行った「小学生に中学校の先生を紹介する」というアイデアも、小中連携があったからこそ思い浮かんだものであった。さらに、中学校側が小学校での学習内容を知るだけでな

く、中学校（主に1年生で）学習する内容も伝えることで、小学校での指導の方向性についても考えていただくことができた。

校内においても、学校全体の協力を得られたことで、あまり負担感がなく小学校の授業に参加することができた。教務主任が小学校に行きやすいように時間割変更に対応してくださり、単元を通じて小学校で授業をおこなうことができた。冬休みにも小学校の担当教員と打合せを行い、3学期も1単元小学校で授業を行うことができた。

③校内英語暗唱大会の開催

毎年行われている、気仙地区英語暗唱大会に向けて、一昨年行った英語暗唱大会校内予選を復活させた。今年度は、1年生4名、2年生3名、3年生2名が全校の前で自分の選んだ題材を発表し、職員やALTが審査員となって審査を行った。出場した生徒たちが聞いている人に内容を伝えようと工夫を凝らして発表する姿は、他の生徒の良い刺激になったようである。また、先輩方の発表を聞いて、その記憶量と表現方法に圧倒されたり、自分もあんな風になりたいと憧れを持ったりするなど、英語学習の動機にもつながった。

【成果】

【1】授業づくりでの成果

①書く力（意欲）について（生徒の成果）

- ・伝える相手を明確に設定することで、相手意識をもち、「自分の表現したいことを書きたい」という活動への動機付けにつなげることができた。
- ・相手に分かりやすく伝えるために、マッピングを活用し、伝えたいことを整理しながら話したり書いたりする力が身についてきた。

②授業について（教師の成果）

目指すゴールの姿がはっきりすることで、活動を行う目的や、行わなければならない活動が明確になる、ということを実感できた。単元構想を考える時は、以前より「何のために？」を考えて授業づくりをするようになってきた。また、生徒一人一人への目配り、気配りを怠らず、励ましたり頑張りや成長を認めたりすることの大切さを強く実感した。

【2】環境づくりでの成果

①小中連携を充実させることができた。（教師の成果）

小学校で行われている外国語活動を目の当たりにし、来年度の参考にすると共に、現在の授業改善にも活かすことができた。様々な方々の協力なくしては実現しないことだと思うので、貴重な機会を与えてくださったことに感謝している。また、小学校英語の教科化に向けて、小中連携の大切さを再確認し、今後取組を進めるきっかけを作ることができた。

②生徒同士の高め合い（生徒の成果）

授業での意見交換、英語教室の掲示や校内英語暗唱など、他の生徒から学んだり、刺激を受けたりする機会を作ることができた。生徒が主体的に英語学習に取り組むきっかけづくりができた。